科目登録の手引き（2008 年度以前入学者用）

-目　次-

Ⅰ　科目登録における注意事項

Ⅱ　科目登録のながれ

Ⅲ　カリキュラム・卒業要件

卒業必要単位数
各科目部門について
　基礎科目
　専門科目
　必修外国語
　選択外国語
　ゼミナール
　「現代日本学プログラム」科目
　自由科目
コンセントレーション(特定テーマ研究)

Ⅳ　履修ルール

（１）各種制限単位数(卒業算入単位数)
（２）科目名のルールについて
（３）既得科目
　（３）－１　別クラス履修不可
　（３）－２　科目の分割・合併・名称変更等による既得科目
　（３）－３　新旧科目対応表
（４）科目履修の前提となる科目・履修が望まれる科目
　（４）－１　科目履修の前提となる科目
　（４）－２　各ゼミナールにおいて履修が望まれる科目
（５）超過履修制度
（６）科目登録 申請エラー チェックシート☑
（７）定員と抽選
（８）社会科学部以外(他箇所・他機関)の科目履修
　（８）－１　全学オープン科目について
　（８）－２　他学部聴講科目について
　（８）－３　教職課程関連科目について
　他機関・他箇所修得単位算入部門表
（９）科目の取り消しについて
（10）科目区分の変更について

Ⅴ　聴講料（実験実習料）納入について

Ⅵ　資格関連情報

（１）教員免許状取得必要科目
（２）社会調査士について

Ⅰ 科目登録における注意事項

① 決定科目の取り消しについて

3 次登録期間中において、1 次～2 次登録で「決定」となっている社会科学部設置の科目の取り消し申請をすることが可能です（ただし、一部科目は除く）。申請方法など詳細はこちら。

①科目区分（卒業算入→非算入）の変更について

3 次登録期間中において、1 次～2 次登録で「卒業算入」として登録が決定した科目の科目区分を変更することが可能です。**ただし、他箇所設置科目であり、かつ科目区分を卒業算入から非算入（超過履修）に変更する場合に限ります。** 申請方法など詳細はこちら。

① 科目登録期間に Web 科目登録が行えない環境にいる場合

科目登録期間中にインターネット環境のない海外にいる等の理由で、Web 科目登録を行えない場合は、代理人による登録手続きを行ってください。代理人に委任する場合は「委任状」（社会科学部ホームページ 科目登録関連よりダウンロード可）の作成および申請予定の科目を事前に代理人へ正確に伝えておく必要があります。**代理人は、委任状を持って各登録期間内に社会科学部事務所にて手続き**を行ってください（期間外の申請は一切受け付けません）。不明な点がある場合は、**必ず事前に事務所へ相談**してください。

① Web 科目登録システム利用にあたって

Web 科目登録システムは、利用者が集中した場合に「サービス制限画面」が表示される場合があります。全学生が待機することなく登録できるように、申請する科目を決めてから、システムにログインしてください。

受付締め切り間際にはアクセスが集中し時間内に申請ができないことがあります。余裕をもったスケジュールで申請を行ってください。また、「登録したはずなのに結果が出てこない」という問い合わせは、受け付けられませんので、各自責任を持って登録を行ってください。

Web 科目登録の詳細は **Web 科目登録マニュアル（社学 HP）を**確認してください。

① 登録方法・結果確認について

早稲田大学の科目登録は、Web 上で申請を受け付けるため、Waseda-net ポータルの ID が必要です。ID を未取得またはパスワードを忘れた方は 7 号館 1 階早稲田ポータルオフィスで、ID 発行手続きを行ってください。登録毎の結果発表は Waseda-net メールへ送信します。登録結果は Waseda-net メールの容量に空きがない場合、受信することができません。科目登録期間中は不要なメールを破棄し、常にメールを受信できるようにしてください。

① 未決定科目の授業参加について

授業開始日までに、すべての登録期間が終了していませんが、2 次、3 次登録で申請予定の科目は登録が決定する前でも、登録予定の授業には必ず参加をするようにしてください。

① 聴講料（実験実習料）の納入について

社会科学設置科目の一部の科目、また一部のオープン科目には聴講料（実験実習料）が必要となります。聴講料（実験実習料）を納入しない場合、履修は認められません。必ず、納入期間内に聴講料（実験実習料）を支払ってください。

① 他箇所科目の登録について ＊4 年生以上の方は特に注意してください。

他箇所の科目を履修した場合、その科目については救済措置（未済試験・再試験等）の対象とならない場合があります。再試験などの制度自体を設けていない学部等もありますので、履修計画を立てる際は十分注意してください。特に**4 年生以上で、再試験を受験する可能性がある方は、社会科学部設置科目を履修する計画を立ててください。**

① 延長生における夏季集中科目および他大学科目の登録について

9 月卒業を予定する延長生の方が夏季集中科目や他大学科目を卒業必要単位として登録する場合、制度上（例：試験、卒業判定等）の不利益が生じる場合があります。

履修を希望する場合は、卒業非算入として登録するか、可能な限り所属学部の春学期科目の単位を取得することで卒業できるよう履修計画を立ててください。

Ⅱ 科目登録のながれ

必修外国語未修得の方

必修外国語 8 単位の修得は卒業要件となっています。まだ、未修得の方は必ず修得してください。

英 語 選 択 者 －必修外国語（英語）登録期間（詳細は社学 HP 参照）で Web 登録を行なってください。

英語以外選択者 －未修得科目が自動登録されます（必修外国語登録期間前に結果発表）。

春学期登録

科目登録関連書類の受け取り・自動登録結果発表（ゼミナール、英語以外の必修外国語）

必修外国語登録期間前に自動登録科目（ゼミナール、英語以外の必修外国語）の結果を Waseda-net ポータルの科目登録専用画面にて発表します。

「科目登録の手引き」、「学生証裏面シール」等の配布を行います。詳細は社学 HP でご確認ください。

必修外国語（英語）（登録 Web 登録）

履修計画に基づいて、Web による登録を行ってください。

（Waseda-net ポータルログイン画面右下の**★成績照会・科目登録専用メニュー**からログイン）

なお、**必修外国語（英語）登録では、英語選択者で未修得のクラスがある方が対象**となります。他言語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語）選択者の未修得者の登録は、自動登録となりますので申請は不要です。

1 次登録（Web 登録）

履修計画に基づいて、Web 科目登録を行ってください。

なお、1次登録では「社会科学部設置春学期科目」・「必修外国語（英語）補充登録」の他、「社会科学部以外の科目登録時期」（社学 HP 参照）で指定された科目を登録することができます。

Web 科目登録の方法については、こちらを参照してください。
申請する科目を決めてからシステムにログインしてください。

1 次登録の結果は、Waseda-net メールの「登録結果確認メール」にて発表します。

申請した科目の結果（決定・エラー・選外など）を確認し、必要に応じて 2 次登録に進んでください。

2次登録（Web 登録）

Web による登録申請を行ってください。

1 次登録の結果、登録エラーや選外により登録されなかった科目がある、または決定科目が各期の登録制限単位数を満たしていない場合等には、2 次登録で申請することができます。

2 次登録では、定員に余裕のある「社会科学部設置春学期科目」の他、「社会科学部以外の科目登録時期」（社学 HP 参照）で指定された科目を登録することができます。

募集する社会科学部設置科目については、社会科学部ホームページで発表する「余裕定員表」を確認してください。※募集していない科目は Web 科目登録で科目を検索することができません。

1 次登録でエラーとなった科目は申請できません。
2 次登録申請期間前から授業が開始されます。まだ登録が「決定していない科目」でも 2 次登録で申請する科目の授業には出席するようにしてください。

2 次登録の結果は、Waseda-net メールの「登録結果確認メール」にて発表します。

申請した科目の結果（決定・エラー・選外など）を確認し、必要に応じて 3 次登録に進んでください。

３次登録・他学部聴講登録（Web登録　一部学部の科目を除く）

2 次登録の結果、登録エラーや選外により登録されなかった科目がある、または決定科目が春学期の登録制限単位数に達していない場合に、3 次登録で申請することができます。また、1 次･2 次登録で決定した科目の取り消しおよび科目区分の変更をすることができます。対象科目など詳細はこちらで確認してください。

3 次登録では、定員に余裕のある「社会科学部設置春学期科目」の他、「社会科学部以外の科目登録時期」（社学 HP 参照）で指定された科目を登録することができます。また、「他学部聴講科目」も同時に申請を受け付けています。

募集する社会科学部設置科目については、社会科学部ホームページで発表する「余裕定員表」を確認してください。※募集していない科目は Web 科目登録で科目を検索することはできません。

3 次登録の結果は、Waseda-net メールの「登録結果確認メール」にて発表します。3 次登録結果で春学期の授業計画が確定します。最終的に登録が決定となった科目を再度確認してください。

これまでに申請した科目（～３次登録）の中で、聴講料（実験実習料）の納入が必要な科目が「決定」になった方は、社会科学部事務所で「聴講料納入票」を受け取り、納入期間内に生協で納入手続きを行ってください（聴講料の詳細は社学 HP をご確認ください）。

秋学期登録

必修外国語（英語）登録・１次登録・２次登録・３次登録（Web 登録）

春学期登録と同様、必修外国語（英語）登録、秋学期 1 次･2 次･3 次登録を実施します。社会科学部設置秋学期科目のほか、全学オープン科目、他学部聴講科目を登録することができます。

受付期間･登録方法は 7 月中旬に、社会科学部ホームページおよび掲示板での発表を予定していますのでご確認ください。

なお、秋学期登録を受け付けない学部等もありますので、社会科学部以外の科目登録を希望される方は、必ず事前に登録時期（「社会科学部以外の科目登録時期」（社学 HP 参照））を確認してください。

Ⅲ カリキュラム・卒業要件

2008 年度以前入学者の方と 2009 年度以降の入学者の方では卒業要件が異なります。
2008 年度以前の入学者のみなさんは、**現行の卒業要件（下表）で卒業することとなります。**

科目は、「基礎科目」「必修外国語」「専門科目」「選択外国語」「自由科目」に分かれ、下表のとおり所定単位を修得し、卒業までに合計 124 単位を修得する必要があります。

▽2002 年度以降入学者適用

科目部門	科目分野	所定単位数	
基礎科目	人文科学系列	20 単位	
	社会科学系列		
	自然科学系列		
必修外国語	１年外国語	４単位	８単位
	２年外国語	４単位	
専門科目	社会科学総合研究	96 単位	
	社会科学総合分野		
	人文科学分野		
	自然科学分野		
	政治学分野		
	法学分野		
	経済学分野		
	商学分野		
	情報科学分野		
	社会科学特殊講義		
	先進社会科学特殊講義		
	ゼミナール		
	外国書研究		
	選択外国語	（8 単位）	
自由科目		—	
計（卒業算入単位数）		124 単位	

▽2001 年度以前入学者適用

科目部門	科目分野	所定単位数	
基礎科目	人文科学系列	20 単位	
	社会科学系列		
	自然科学系列		
第一外国語	１年外国語	４単位	８単位
	２年外国語	４単位	
専門科目	社会科学総合研究	92 単位	
	社会科学総合分野		
	人文科学分野		
	自然科学分野		
	政治学分野		
	法学分野		
	経済学分野		
	商学分野		
	情報科学分野		
	社会科学特殊講義		
	先進社会科学特殊講義		
	専門演習（ゼミナール）		
	外国書研究	４単位	
第二外国語		（8 単位）	
自由科目		—	
計（卒業算入単位数）		124 単位	

※学士入学者は 3 年次に入学し、専門科目から 76 単位（2001 年以前入学者は「外国書研究」を含む）を修得することで卒業要件を満たします。
※3 年編入学者、転部、外国学生編入学試験により、本年度 3 年次に編入学した学生は、上記所定単位数から、出身教育機関における修得単位の内、本学部編入学時に認定を受けた各科目部門の単位数を減じた残り単位数を修得することで卒業要件を満たします。

■各科目部門について

以下では、社会科学部の各科目部門について紹介しています。特に、必修外国語については 2009 年度より、履修ルールが大きく変更されていますので、熟読の上、登録を行ってください。

基礎科目

基礎科目は、人文科学・社会科学・自然科学の 3 系列からなります。科目は、系列に関係なく自由に選択できますが、**卒業までに 20 単位以上を修得しなければなりません。**

専門科目

専門科目には、社会科学総合研究・社会科学総合・人文科学・自然科学・政治学・法学・経済学・商学・情報科学・社会科学特殊講義・先進社会科学特殊講義の 11 分野、ゼミナール、外国書研究があります。科目は、系列に関係なく自由に選択できますが、**卒業までに 96 単位以上を修得しなければなりません。**

必修外国語

必修外国語は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語から1言語を選択し履修します。
2009 年度からの科目半期化にともない、必修外国語の科目名が変更されましたので、下記一覧にて確認し、登録の際に間違いのないようにしてください。

▽必修外国語科目 読替一覧

英　　語				
2008 年度以前	2009 年度以降	2008 年度以前	2009 年度	2010 年度以降
1 年英語Ⅰ	英語１－１（春学期） 英語１－１（秋学期）	2 年英語Ⅰ	2 年英語１（前期）	英語２－１（春学期）
			2 年英語１（後期）	英語２－１（秋学期）
1 年英語Ⅱ	英語１－２（春学期） 英語１－２（秋学期）	2 年英語Ⅱ	2 年英語２（前期）	英語２－２（春学期）
			2 年英語２（後期）	英語２－２（秋学期）
ド　イ　ツ　語				
2008 年度以前	2009 年度以降	2008 年度以前	2009 年度	2010 年度以降
1 年ドイツ語Ⅰ《基礎》	ドイツ語１基礎 ドイツ語１初級	2 年ドイツ語Ⅰ《中級》	2 年ドイツ語１準中級	ドイツ語１準中級
			2 年ドイツ語１中級	ドイツ語１中級
1 年ドイツ語Ⅱ《初級》	ドイツ語２基礎 ドイツ語２初級	2 年ドイツ語Ⅱ《中級》	2 年ドイツ語２準中級	ドイツ語２準中級
			2 年ドイツ語２中級	ドイツ語２中級
フ　ラ　ン　ス　語				
2008 年度以前	2009 年度以降	2008 年度以前	2009 年度	2010 年度以降
1 年フランス語Ⅰ《基礎》	フランス語１基礎 フランス語１初級	2 年フランス語Ⅰ《中級》	2 年フランス語１準中級	フランス語１準中級
			2 年フランス語１中級	フランス語１中級
1 年フランス語Ⅱ《初級》	フランス語２基礎 フランス語２初級	2 年フランス語Ⅱ《中級》	2 年フランス語２準中級	フランス語２準中級
			2 年フランス語２中級	フランス語２中級
中　　国　　語				
2008 年度以前	2009 年度以降	2008 年度以前	2009 年度	2010 年度以降
1 年中国語Ⅰ《基礎》	中国語１基礎 中国語２基礎	2 年中国語Ⅰ《中級》	2 年中国語１準中級	中国語１準中級
			2 年中国語１中級	中国語１中級
1 年中国語Ⅱ《初級》	中国語１初級 中国語２初級	2 年中国語Ⅱ《中級》	2 年中国語２準中級	中国語２準中級
			2 年中国語２中級	中国語２中級
ス　ペ　イ　ン　語				
2008 年度以前	2009 年度以降	2008 年度以前	2009 年度	2010 年度以降
1 年スペイン語Ⅰ《基礎》	スペイン語１基礎 スペイン語２基礎	2 年スペイン語Ⅰ《中級》	2 年スペイン語１準中級	スペイン語１準中級
			2 年スペイン語１中級	スペイン語１中級
1 年スペイン語Ⅱ《初級》	スペイン語１初級 スペイン語２初級	2 年スペイン語Ⅱ《中級》	2 年スペイン語２準中級	スペイン語２準中級
			2 年スペイン語２中級	スペイン語２中級

＜英語選択者の登録＞※希望順位登録･･･「いろいろな申請方法（こちら）

必修外国語（英語）の再履修（英語１－１※、英語１－２※、英語２－１※、英語２－２）

上記クラスを未修得の場合は、必修英語登録期間に希望するクラスを自分で選んで**Web 科目登録**を行います。

「英語１－１」「英語１－２」「英語２－１」は第２希望まで、「英語２－２」は第５希望まで申請可能です。

なお、希望順位登録方法は「いろいろな申請方法（こちら）」を参照してください。

※１年次の「英語１－１」、２年次の「英語２－１」が不合格だった方は、再履修クラスであるＹクラスまたはＺクラスを履修してください。

※１年次の「英語１－２（General Tutorial English）」が不合格だった方は、社会科学部設置の「英語１－２」（春学期・秋学期）を履修してください。

春学期・秋学期ともに未修得の場合	春学期必修外国語(英語)登録期間に**春学期のクラスのみ申請**してください。**秋学期のクラスは春学期と同じクラスが自動で登録**されます。
春学期のみ未修得の場合	春学期必修外国語(英語)登録期間に春学期のクラスを申請してください。**秋学期のクラスで代替することはできません。**
秋学期のみ未修得の場合	秋学期必修外国語(英語)登録期間(9 月中旬予定)に秋学期のクラスを申請してください。**春学期のクラスで代替することはできません。**

「必修英語登録期間に申請を忘れた」or「希望したすべてのクラスで選外になってしまった」or「申請したがエラーになってしまった」場合

1 次登録期間に定員に余裕があるクラスに限り、補充登録を受け付けます。対象の方は Web 科目登録を行ってください。なお、1 次登録の結果、履修するクラスが決定しない場合は、定員に余裕のあるクラスから先着順にて追加登録を認めますので、登録を希望される方は社会科学部事務所にて手続きを行ってください（詳細日程は社学 HP 参照）。

「基礎クラス」の履修条件について【注意】

英語2－2 Aクラスは、**自己推薦、附属・系属推薦入試制度による入学者のみが履修可能**なクラスです。**基礎学力が不十分な学生を対象**として、英語を基礎から学習します。対象以外の方が申請すると抽選の際に**必ずエラーとなり、その結果希望するすべてのクラスが選外になる確率が非常に高くなりますので、絶対に申請しないでください。**

＜ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語選択者の登録＞※自動登録

再履修（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語）

必修外国語としてドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語を選択しており、単位を修得していない科目は、**履修クラスが自動登録されます（科目登録申請の必要はありません）。**

■必修外国語（英語以外）の通年履修について

2009 年度以降入学者の新カリキュラムでは、英語以外の必修外国語について、春学期の単位修得が秋学期の履修条件となっています。しかし、2008 年度以前入学者の方で、必修外国語をドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語としている場合、通年での履修を保障するため、**春学期に不合格（F または G 判定）となった場合についても秋学期の履修を認めることとします。**

なお、4 年生以上で春学期の成績判定が F かつ秋学期科目登録後に卒業見込み判定が出ている場合、秋学期成績発表後に、春学期の科目の再試験を受験することができます。

春学期の成績	秋学期の履修可否	春学期科目の再試験（3 月実施）
F	履修可	受験可
G	履修可	受験不可→翌年度に要再履修

必修外国語の変更について

入学時に選択した言語は在学中 1 度に限り、変更することができます（社会科学ホームページ等で案内しましたが、本年度の申請は終了しております）。必修言語を変更した場合、変更後の外国語は 1 年配当科目から履修しなければなりません。

既に修得した必修外国語科目は自由科目となり、卒業算入単位にはなりません。ただし、1 年次に修得した「General Tutorial English」の単位取り扱いは下表のとおりとなります。

修得済み必修 Tutorial English　単位の取り扱い（2005 年度以降入学者対象）	
必修英語選択者	必修外国語（英語１－２）　→ 選択外国語※
必修英語以外選択者	選択外国語 → 必修外国語（英語１－２）

※選択外国語を既に年間４単位・在学中８単位修得している場合、「自由科目」となります。

また選択外国語として履修し、単位修得済みの科目を必修外国語の言語として選択することはできません（単位修得済み科目の科目部門は変更できません）。

選択外国語

外国語科目の科目部門は、必修外国語と選択外国語とに分かれます。必修外国語科目として選択しなかった一言語を選択外国語として選択し、履修することが可能です。

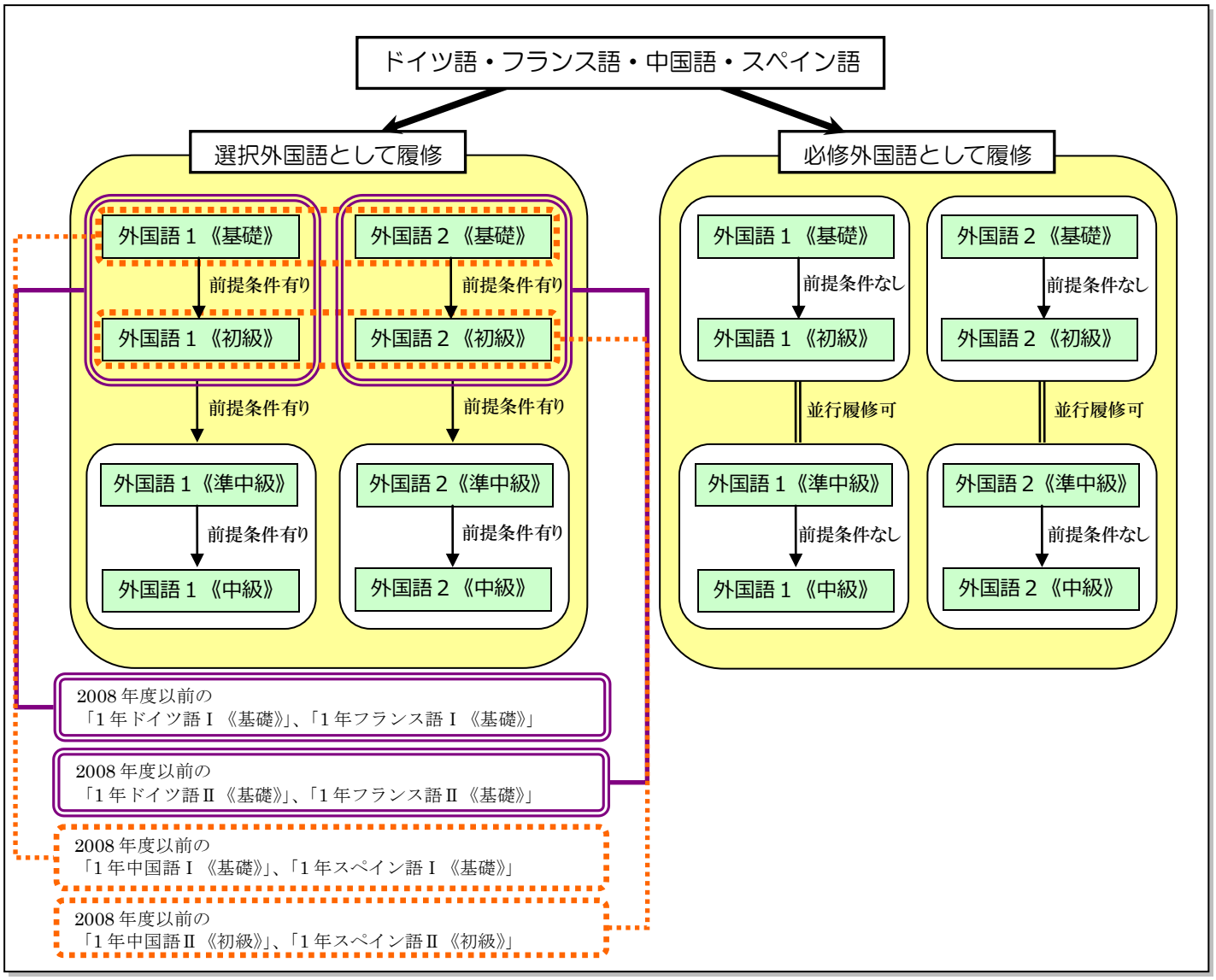
選択外国語は**「年間４単位・卒業までに８単位を上限」として専門科目部門の卒業必要単位として算入**することができます。

社会科学部設置の選択外国語を登録する場合は、必修外国語登録後、定員に余裕のあるクラスから希望クラスを選択して、１次登録期間に申請します（各クラスには必修・選択両履修者が混在することになります）。

また、全学オープン科目として指定される社会科学部以外（他箇所）に設置された外国語科目は、必修外国語の言語に関わらず、選択外国語科目の卒業必要単位として算入可能となります。

⚠ ＜選択外国語＞履修の前提条件に注意してください

社会科学部設置のドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語を選択外国語として履修する場合、履修に前提条件がありますので、十分注意して登録を行ってください。



ゼミナール

社会科学部の基本理念のひとつである「問題発見・解決のできる学生の育成」をより具体的に推し進めるために、少人数教育の充実を目指した演習授業です。ゼミナールの各クラスは、Ⅰから Ⅲに亘って一貫したテーマにより実施され、各段階に応じておおよそ次頁の表のように進められていきます。

科目名	科目の概要	配当学年	学期	単位
ゼミナールⅠ（春学期）	専門的学習への導入	2 年以上	春学期	2 単位
ゼミナールⅠ（秋学期）			秋学期	2 単位
ゼミナールⅡ（春学期）	専門的・総合的学習	3 年以上	春学期	2 単位
ゼミナールⅡ（秋学期）			秋学期	2 単位
ゼミナールⅢ（春学期）	専門的・総合的学習の完成	4 年以上	春学期	2 単位
ゼミナールⅢ（秋学期）			秋学期	2 単位

・ゼミナールⅠは単独、ゼミナールⅡ・Ⅲは合同で実施されます。

・**延長生（5 年生以上）でゼミナールの継続履修を希望する場合は、授業開始前までに、社会科学部事務所へ「延長生ゼミナール登録申請書」を提出してください（指導教員の押印が必要です）。**

選考に合格したゼミナールはすべて春学期・秋学期セットで自動登録され、ゼミナールⅡ・Ⅲは春学期の単位が修得できなくても秋学期を履修することができます（春学期の単位修得は秋学期の履修前提条件ではありません）。また、原則として**春学期終了時でのゼミナールの取消・クラス変更はできません。**

延長生のゼミナール登録について

ゼミナールを履修中の方で、前年度終了時点で未修得の単位がある場合に限り、延長生時にゼミナールを履修することが可能です。

延長生がゼミナールを履修する場合、担当教員が翌年度の履修を許可したとしてもゼミナールは自動登録されません。ゼミナール登録を希望される方は、社会科学部事務所にてゼミナール登録用の申請書をお渡ししますので、3 次登録終了までに、必ず、申請書に必要事項を記入し、さらに担当教員の承認印を受けた上で、事務所に提出してください。

なお、延長生に関しては、ゼミナールの後期(秋学期)が未履修（単位未修得）の場合、これを前期(春学期)科目とし登録することが可能です。

詳細については事務所にて説明いたしますので、興味のある方はおたずねください。

「現代日本学プログラム」科目

社会科学部では 2011 年度秋学期より、英語による授業のみで学位を取得できる「現代日本学プログラム」（Contemporary Japanese Studies Program）を開設しました。当該プログラム設置科目のうち、3 次登録の時点で定員に余裕のある科目については履修することが可能です。履修を希望する方は、初回の授業に参加し、そこで自分の語学力で授業についていくことができるかどうか、自身で判断してください。もし自身で判断がつかない場合には、初回の授業終了後、担当の教員に相談し履修の可否を決めてください。当該科目を履修した場合、基礎科目または専門科目として卒業単位に算入することが可能です。開講科目は社会科学部 HP を、各科目の詳細は Web シラバスをそれぞれ参照してください。

・申請受付期間:各学期 3 次登録期間
※ただし、全学オープン科目に指定された科目のみ 1 次登録期間に申請を受けつけます。
・申　請　方　法:Web 申請

自由科目

自由科目部門には、教職資格取得のために必要な各科目が設置されています。自由科目部門で修得した単位は、卒業必要単位、登録制限単位には含まれません（成績証明書には記載されます）。

また、超過履修登録（こちら）した科目も自由科目として取り扱われます。

▽自由科目として扱われる科目

該当科目
社会科学部設置自由科目部門の各科目
他箇所・他機関設置科目の自由科目部門（算入しない）に該当する各科目 ※他箇所・他機関修得単位算入部門表（こちら）又は社会科学部ホームページを参照してください。
科目登録時に「超過履修」として申請した科目
大学院社会科学研究科設置科目の「先取り履修制度」*で履修した科目

＊大学院 社会科学研究科設置科目　先取り履修制度について【参考】

①先取り履修制度利用者

社会科学部と大学院社会科学研究科では「先取り履修制度」を設け、**社会科学部4年生以上の学生**に大学院設置科目の履修を認め、取得した単位は年間8単位を上限として、最大10単位まで、修士課程に進学した場合、その修了単位として認定します。なお、**社会科学部での単位取り扱いは「自由科目」となり、卒業算入扱いとはなりません。**

②学士入学者

社会科学部に学士入学試験により入学した4年生以上に在学している学生を対象に、年間4単位を上限として、同研究科が聴講を許可する科目を履修することができる制度です。修得した単位は、学部の専門科目部門の卒業必要単位として認定されます。

詳細につきましては、社会科学部事務所へ問い合わせください。

申請受付期間：１次登録期間～３次登録期間
受　付　場　所：社会科学部事務所

コンセントレーション

１.「コンセントレーション（特定テーマ研究）」とは

社会科学部は、学部創立以来の社会科学の総合化を標榜し、学際的なアプローチを理念としてきました。従ってカリキュラムは学生個人の興味に応じた時間割が設計できるよう極めて高い自由度を有しています。このことは、知識や技術の虫食いを容認するものでは決してありません。あくまで各自の学問的な興味に応じて各自が自己責任で履修計画をたてることを大前提としています。

各自の履修計画をサポートするために、本学部では２つの視点から構成される、科目グループを用意しています。これらの科目群は３年生までに履修することが望ましく、最低でもひとつ、可能な限り複数の領域に挑戦することを強く推奨します。

２．修了に必要な単位等

- 各コンセントレーションでは、修了に必要な単位数（10～20 単位）が定められております。また、修了する為には必ず修得しなければならない「コンセントレーション必須科目」とそれ以外の「コンセントレーション選択科目」が設置されております。次ページ以降の各コンセントレーションの設置概要に沿って履修計画を立ててください。
- 修了必要単位は、卒業単位への「算入」・「非算入」は関係ありません。単位が修得できれば修了必要単位として認定されます
- 2009 年度以降に修得した単位が対象となります。
- **各コンセントレーションにおける修了要件を満たすことにより、自動証明書発行機にて、「修了証明書」を発行することができます。**

詳細について

コンセントレーション詳細につきましては、**社学 HP** をご確認ください。

Ⅳ 履修ルール

科目登録では以下の履修ルールを熟読し、エラーを出さないよう十分注意してください。

(1)各種制限単位数(卒業算入単位)

履修できる登録単位数は制限があり、これらの制限を超えて登録するとエラーとなります(Web 科目登録時にはエラーチェックがかかりませんので注意してください)。単位数を調整し、制限単位数以内で申請を行ってください。

> ⚠ 超過履修申請(「(5)超過履修制度」(こちら))を行わずに、各登録制限単位数を超えた場合、エラーの対象科目が社会科学部以外の設置する科目であれば、**自動的に超過履修として登録され、自分が意図しない科目が超過履修となってしまうことがあります。**
> 自動的に超過履修となった科目の取り消し、卒業算入扱いの科目との算入区分の入れ替え、または卒業算入扱いの科目に戻すことはできません。したがって、**各種制限単位数を超えて登録を希望する際は、必ずオーバーする単位数分以上を超過履修申請するようにしてください。**

▽年間・半期登録制限単位数

<一般入学者>

3 年生以下		4 年生以上	
年間合計		年間合計	
40 単位		**48** 単位	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
24 単位	**24** 単位	**28** 単位	**28** 単位

<学士・3 年編入学者>

3 年生以下		4 年生以上	
年間合計		年間合計	
48 単位		**56** 単位	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
28 単位	**28** 単位	**32** 単位	**32** 単位

例) 一般入学 3 年生以下の方が春学期に 24 単位登録した場合、秋学期登録可能単位数は単位修得の合否によらず 16 単位までとなります(年間の登録制限単位数)。

例)一般入学 3 年生以下の方が春学期に 14 単位しか登録しなかった場合、秋学期は 24 単位までしか登録できません(秋学期の登録制限単位数)。

▽系列別登録制限単位数

種別	配当年次	年間	在学中
選択外国語	1 年以上	4 単位	8 単位
社会科学特殊講義	1 年以上	4 単位	12 単位
先進社会科学特殊講義	2 年以上	4 単位	4 単位
外国書研究	2 年以上(英書研究) 2 年以上(中国書研究) 3 年以上(上記以外)	4 単位	4 単位
ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ	2 年以上	4 単位	12 単位
保健体育科目	1 年以上	4 単位	4 単位
ソーシャル・リサーチ	2 年以上	4 単位※	8 単位

※ソーシャル・リサーチは各学期 2 単位の登録制限もあります。

▽他箇所・他機関登録制限単位数

種別	年間	在学中
必修外国語	—	8 単位
その他科目	12 単位	40 単位
合計	12 単位	48 単位

▽科目の配当時期(学期)と単位をカウントする学期

開講学期区分	春学期登録単位としてカウント	秋学期登録単位としてカウント	年間登録単位としてカウント
春学期	○		○
秋学期		○	○
春夏期	○		○
通年※	○		○
夏季集中	○		○
冬季集中		○	○
春季集中		○	○
集中講義(春学期)	○		○
集中講義(秋学期)		○	○
夏秋期		○	○

※通年科目は春学期登録単位数としてもカウントされますので、注意してください。

(2)科目名のルールについて

社会科学部の科目名は「科目名称」と「クラス名称」(科目名の後につくアルファベット)により識別されます。また、科目名によって履修方法が異なりますので、十分注意して科目登録に臨んでください。

(例)
社会科学特殊講義１　A～B
科　目　名　クラス名
経済学入門１〔マクロ経済学〕　A～C
科　目　名　クラス名
政治機構論 II　A～B
科　目　名　クラス名

★「Ⅰ・Ⅱ　科目」＝積み上げ式の科目①（Ⅰを履修し単位を取得していないと、Ⅱが履修できない）
（例：「社会保障法Ⅰ」・「社会保障法Ⅱ」など）

Ⅰの単位を修得していないと、Ⅱを登録・履修することはできません。
（Ⅰを未修得の方が、Ⅱを申請した場合、前提条件エラーとなります。）

履修できない例

✓「○○Ⅰ」を前学期までに修得していない場合、「○○Ⅱ」を登録するとエラーとなります。
✓「○○Ⅰ」を春学期に履修して単位を修得できなかった場合、秋学期に「○○Ⅱ」は登録するとエラーとなります。
✓ 必ずしも「Ⅰ」が春学期、「Ⅱ」が秋学期に開講されているとは限りません。
✓「Ⅰ」と「Ⅱ」が同学期に開講される場合もあります。

※積み上げ式が解除され「Ⅰ」・「Ⅱ」から「１」・「２」に変更されている科目もあります。

Ⅰ・Ⅱ科目の例外

ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ	「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は、担当教員の判断により翌年度継続履修の可否が決定します（例年９月頃発表）。

★「《基礎》・《初級》・《準中級》・《中級》」＝積み上げ式の科目②【選択外国語】
（《基礎》が《初級》、《初級》が《準中級》、《準中級》が《中級》を履修する前提条件となる）
（例：「ドイツ語１《基礎》・《初級》」・「フランス語１《準中級》・《中級》」など）

社会科学部設置のドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語を履修する場合、

①《基礎》の単位を修得していないと、《初級》を履修できません。
②《初級》の単位を修得していないと、《準中級》を履修できません。
③《準中級》の単位を修得していないと、《中級》を履修できません。

履修できない例

✓「ドイツ語１《基礎》」の単位を前学期までに修得していない場合、「ドイツ語１《初級》」を登録するとエラーになります。
✓「ドイツ語１《基礎》および《初級》」の単位を前年度までに修得していない場合、「ドイツ語１《準中級》」を登録するとエラーになります。
✓「ドイツ語２《準中級》」の単位を前学期までに修得していない場合、秋学期に「ドイツ語２《中級》」を登録するとエラーになります。

★「１・２　科目」＝非積み上げ式の科目（いずれの科目からでも履修できる）
（例：「メディア論１、２、３、４」など）

✓ １または２（３、４…）のいずれからでも登録・履修することができます。
✓ １→２→３…といったように、番号順に履修する必要はありません。
✓ 必ずしも１、２、３…の全てを履修する必要はありません。

★「A・B…」＝クラス名…同一と見なされる科目が複数ある場合（いずれか１科目のみ履修できる）
（例：「憲法Ⅰ　A・B」、「経済学入門１〔マクロ経済学〕　A・B・C」など）

✓ ＡまたはＢ（Ｃ、Ｄ…）の内、いずれか１クラスのみ履修することができます。
例えば、「社会科学特殊講義１Ａ」の単位を既に修得している場合、「社会科学特殊講義１Ｂ」は登録できません。
✓ 春学期にＡ（Ｂ、Ｃ…）の単位を修得できなかった場合、秋学期に別クラスが開講されていれば履修することができます。
✓ 別クラスが同学期に開講される場合、その学期にはいずれか一方しか登録できません。
✓ 担当教員が異なる場合も、同内容科目と見なされるため履修できません。

★半期集中型の科目（週２コマ、半期４単位）
（例：社会科学のための基礎コンピュータ）

社会科学部の一部の科目は「週２コマ・半期４単位」として開講されます。
履修を希望する場合は、他の科目との曜日・時限の重複に注意してください。

★半期集約型の科目（週１コマ、半期２単位）

2008 年度まで通年４単位だったものを、半期２単位にしたもので、原則として科目名は同一になります。
例）【2008 年度以前】民法（総則）通年４単位　→　【2009 年度以降】民法１〔総則〕半期２単位
単位数が変わっていても、同科目とみなされる場合、履修することはできません。

(3)既得科目

(3)－1　別クラス履修不可

社会科学部の科目名は、「科目名称」(アラビア数字(1、2…)、ローマ数字(Ⅰ、Ⅱ…)までを含む)と「クラス名称」(科目名の後につくアルファベット)により識別されます。

（例）　社会科学特殊講義１　　Ａ～Ｂ
　　科　　目　　名　　クラス名

前年度または前学期までに単位を修得した科目は、再度登録することができません。**クラス違いは、同一科目とみなされます**ので、例に挙げた科目の場合、「社会科学特殊講義1　A」を既に修得していると、「社会科学特殊講義1 B」を登録できなくなります。

また、**クラス違いの科目が同学期に開講される場合、並行して履修することもできません**(申請を行った場合、どちらか一方がエラーとなり登録されません)。

別クラスが春学期・秋学期に分かれて開講される場合は、春学期に登録して単位を修得できなければ、秋学期に別クラスを登録することができます。

(3)－2　科目の分割・合併・名称変更等による既得科目

科目名や授業実施形態の変更などにより、一見異なる科目に見えても同じ科目として扱われるものがあります。**変更前科目の成績を修得済みの場合、申請をしても「既得エラー」となり登録できません。**

Waseda-net ポータルの成績照会等で前年度までの既得科目を確認し、該当科目がある場合は申請を行わないでください。申請を行っても既得エラーとなり登録できません。

新旧科目対応表

（対応表の見方）

今年度、申請する科目を新年度科目名（表の左側）から探す（科目部門毎 50 音順）。

新年度配当科目名	旧科目名
金融商品取引法 I	証券取引法（金融商品取引法）
金融商品取引法 II	証券取引法［2006 年度以前］

年度の指定がない科目は、
［2008 年度以前］となります

前年度までに、「旧科目名」にあるもの（表の右側）を修得済みの場合、対応する新年度配当科目（表の左側）を履修することはできません。

上の表に示した科目の場合、2008 年度までに「証券取引法（金融商品取引法）」または「証券取引法」の単位を修得している場合、「金融商品取引法 I」および「金融商品取引法 II」を履修することはできません。

2008 年度以前入学者の“新旧対応表”は社学 HP でご確認ください。

(4)科目履修の前提となる科目、履修が望まれる科目

(4)－1　科目履修の前提となる科目

科目によっては、履修のための前提となる科目が設定されているものがあります。これらの科目は、前年度または前学期までに、前提となる科目を履修し、単位を修得していなければ履修することはできません。

また、その他にも「履修が望ましい科目」があり、それぞれ講義要項で指定されています（必修ではありません）。

2009 年度より**科目が半期化されたことにより、前提条件が設定された科目（科目名にⅠ・Ⅱがつくものなど）が大幅に増えています。十分注意して登録を行ってください。**

前提となる科目	科目名
○○　Ⅰ	○○　Ⅱ
例）社会保障法Ⅰを修得していない場合、社会保障法Ⅱを登録できません。	
外国語１（または２）《基礎》	外国語１（または２）《初級》
例）ドイツ語１《基礎》を修得していない場合、ドイツ語１《初級》を登録できません。 ドイツ語２《基礎》を修得していない場合、ドイツ語２《初級》を登録できません。	
外国語１（または２）《初級》	外国語１（または２）《準中級》
例）フランス語１《初級》を修得していない場合、フランス語１《準中級》を登録できません。 フランス語２《初級》を修得していない場合、フランス語２《準中級》を登録できません。	
外国語１（または２）《準中級》	外国語１（または２）《中級》
例）スペイン語１《準中級》を修得していない場合、スペイン語１《中級》を登録できません。 スペイン語２《準中級》を修得していない場合、スペイン語２《中級》を登録できません。	

前提科目の注意点

※1 「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は、担当教員の判断により翌年度継続履修の可否が決定します。

※2 **選択外国語として**ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語を**履修**する場合

※3 2008 年度以前入学者が、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語を**必修外国語として履修する場合は、春学期（《基礎》または《準中級》）の単位修得有無に関わらず、通年での履修が認められます。**

（「必修外国語（英語以外）の通年履修について」（こちら））

2008 年度以前に、「1 年配当の選択外国語」の単位のみ修得している場合

ドイツ語・フランス語

2008 年度以前		2009 年度以降
「1 年○○語Ⅰ《基礎》」を修得済み	→	「○○語 1 準中級」を履修可能
「1 年○○語Ⅱ《初級》」を修得済み	→	「○○語 2 準中級」を履修可能

中国語・スペイン語

2008 年度以前		2009 年度以降
「1 年○○語Ⅰ《基礎》」および 「1 年○○語Ⅱ《初級》」を修得済み	→	「○○語 1《準中級》」および 「○○語 2《準中級》」を履修可能

(4)－2　各ゼミナールにおいて履修が望まれる科目

ゼミナールにおいて履修が望まれる科目の詳細は社学 HP をご確認ください。

(5)超過履修制度

超過履修制度は、**各種制限単位数(こちら)を超えて登録する場合や、ある科目の単位を卒業算入単位に含めたくない場合**に、自由科目として申請する制度です。

超過履修科目は、自由科目部門として登録されますので、卒業算入単位には含まれません。

なお、超過履修申請して**登録決定となった科目を、卒業算入扱いの科目(基礎科目・選択外国語科目・専門科目)へ戻すことはできません**ので、十分ご注意ください。

①超過履修制度の対象科目

超過履修できる科目
基礎科目
専門科目※
選択外国語科目

超過履修できない科目
必修外国語
ゼミナール
自由科目

※2009年度より、専門科目(ゼミナールを除く)についても超過履修をすることが可能となりました。社会科学部以外の科目で、専門科目として扱われる科目も同様に超過履修することができます。各種登録制限単位数を超えて専門科目を履修したい場合は、申請を行ってください。

②抽選となった場合の優先順位

超過履修申請した科目(社会科学部設置科目のみ)が抽選対象科目となった場合、**卒業算入として登録した学生を優先的に登録**しますので、予めご了承ください。

③超過履修申請を行わなければならない場合

・各種制限単位数(こちら)を超えて登録する場合
・卒業算入単位に含めたくない場合

(例)
✓他箇所・他機関科目の登録制限単位数(年間:12単位、在学中:40単位)を超えて履修したい場合
✓保健体育科目の登録制限単位数(年間:4単位、在学中:4単位)を超えて履修したい場合
✓卒業算入登録年間制限の40単位(4年生以上48単位)を超えて履修したい場合
✓選択外国語を既定単位数(年間:4単位、在学中:8単位)を超えて履修したい場合　　など

④超過履修申請を行わなくても良い場合

・卒業算入の既得単位(基礎科目:20単位、専門科目:96単位)を超えて登録する場合

卒業算入単位は登録制限単位ではないので、各種制限単位を超えない限り、登録することができます。

ただし、算入単位数を超えて単位を修得したものについては卒業算入単位になりません。下の例の場合、基礎科目の単位を24単位修得しても卒業算入は20単位となり、4単位分は卒業算入単位外となります。

(例)
「基礎科目をあと4単位修得すれば基礎科目部門の卒業要件(20単位)を満たすが、単位修得に自信がなく4単位余分に、8単位登録しておきたい」という場合、年間の登録単位数が40単位以内であれば、8単位分の登録を行い、超過履修申請を行う必要はありません。

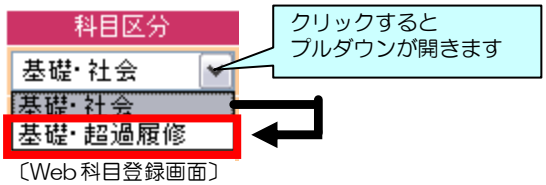
⑤超過履修申請をせずに、各種制限単位を超えた場合

超過履修申請をせずに、各種制限単位を超えた場合、社会科学部設置科目については申請した科目が無作為にエラーとなり、**他機関・他箇所科目については、無作為に超過履修として登録され、エラーを回避します(登録制限単位数(こちら)参照)。**

そのため、自分では卒業単位に含めるつもりの科目が超過履修となってしまうことがあります。**登録制限単位を超えて申請をする場合は、必ずWeb申請の際に科目区分を「超過履修」として申請を行ってください。**

⑥超過履修申請方法

Web 履修申請をする場合に、超過履修ができる科目は「科目区分」を変更することができます。超過履修申請をする場合、初期設定は、「基礎・系列名称」または「選択・言語名称」等となっていますが、これを「基礎・**超過履修**」「選択・**超過履修**」等へ変更して申請をしてください。



〔Web 科目登録画面〕

Web 科目登録以外の方法（自動登録科目や他大学科目など）で登録する場合は、社会科学部事務所で「超過履修申請書」を受け取り、申請期間中に提出してください。

(6)科目登録　申請エラー　チェックシート☑

代表的なエラーについて、フローチャート形式で掲載しています。**すべての項目が Web 科目登録時にチェックされるわけではありません。**申請完了前に再度、申請エラーがないかどうか自分で確認し、エラーによる登録ミスがないようにしてください。

申請科目の曜日・時限が重複していませんか？

「曜日･時限重複エラー」

曜日・時限が重複したまま申請した場合、どちらかが無作為にエラーとなり、エラーとなった科目は登録されません。
申請科目の曜日・時限をもう一度チェックしてください。

申請した科目が、制限単位数をオーバーしていませんか？
(!)Web 科目登録時にはチェックされません！

「年間制限単位数オーバーエラー」
「系列別制限単位数オーバーエラー」

P.19 の制限単位数をチェックして、超えている場合は、制限単位数以下になるまで、申請を取り消すか、「超過履修」として申請（P.31）してください。
超過履修としなかった場合、社会科学部設置科目はエラーとなり、社会科学部以外の科目は超過履修として登録されます。

既に単位を修得している科目・登録決定となっている科目を申請していませんか？
特に分割・統合等により、科目名称が変更されたものはチェックしましたか？
(!)Web 科目登録時にはチェックされないものがあります。

「既得済・登録済エラー」

既得科目や同じ科目を申請した場合、エラーとなり登録できません。
新旧科目対応表（P.22-28）を確認してください。

履修に前提条件がある科目をチェックしましたか？
(!)Web 科目登録時にはチェックされないものがあります。

「前提条件エラー」

条件を満たしていない科目を申請した場合、エラーとなり登録されません。
前提となる科目の単位を修得してから、履修するようにしてください。
「科目履修の前提となる科目」（P.29）

遠隔地キャンパスや他大学の科目を申請する場合、十分な移動時間がありますか？

「遠距離エラー」

授業間のキャンパス移動に、十分な時間がないと判断される場合、いずれか 1 科目がエラーとなり、登録されません。

★移動時間の例

早稲田･戸山 西早稲田･喜久井町	90 分	所沢
早稲田･戸山 西早稲田･喜久井町	50 分	東伏見 上石神井

自分の学年より、配当学年が上の科目を申請していませんか？

「配当年次エラー」

配当学年が自分の学年より上の科目を検索しても、検索結果一覧には表示されません。

なお、科目登録エラーは、「Waseda-Net ポータルの科目登録画面」「登録結果通知メール」等によってシステム的にエラーと表示されない場合があります。そのような場合においても、ルール通りの科目登録がされていなければ、科目登録期間終了後に取消しとなりますので、十分注意して、科目登録を行ってください。

(7)定員と抽選

(7)－1 定員が定められている科目

▽科目部門毎に定員が定められている科目

科目部門	履修定員
外国語科目	42 名
ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ	17 名
コア科目	300 名

▽科目毎の履修定員

対象科目	履修定員
コンピュータルームで授業を行う科目	40 名（14-613） または 63 名（14-614）
外国書研究	40 名
専門英語（2008 年度以前：上級英語）	20 名
ソーシャル・リサーチ	30 名
理解と表現の技法	30 名
ヴィジュアルイメージ研究	20 名
参加のデザイン技術	20 名
社会デザイン実習１	50 名
社会デザイン実習２〔メディアコミュニケーション〕	20 名
紛争解決論実習１・２	15 名
問題の発見と探求の技法	20 名

上記科目以外の定員は原則 300 名とします。

ただし、1 次登録で 300 名を大幅に超える希望者があった科目については、最大 500 名まで定員を拡大することがあります。また教室設備との関係から、教室収容定員を履修定員とする科目があります。

＊コア科目の定員設定について

「コア科目」については、2 年生以上の履修を確保するため、各期1次登録のみ下表のとおり定員に 2 年生以上の枠を設定します。なお2次登録以降の募集ではこの定員枠をなくし、申請者多数の場合には学年ごとに設定されている優先順位（下記(7)-2 抽選時の優先順）により抽選を行います。

在学生定員	新入生定員
定員の３割	定員の７割

(7)－2 抽選時の優先順

定員に定めのない科目の履修定員は最大 300 名です。希望者が各科目の定員を超える場合には、次のルールに従って抽選が行われ登録者が決定されます。抽選の結果、落選してしまった場合、「選外」となり登録されません。

１）抽選ルールが定められている科目

学年別順位 / 科目	抽選順位（数字が小さいほど高順位）			
	１年生	２年生	３年生	４年生以上
コア科目	1	3	3	2
民法概論	1	2	2	2
コンピュータと社会工学 Ⅰ・Ⅱ※	1	2	2	2
理解と表現の技法 A（春学期）	2	1	2	2
理解と表現の技法 B（秋学期）	1	2	2	2
問題の発見と探求の技法	1	2	2	2

※教職免許「情報」取得希望の 3 年生以上を優先します。1 次登録期間中に社会科学部事務所へ申し出てください。この科目は隔年開講科目です。教職「情報」の選択必修科目ですので、**3 年生以上で履修を希望する方はご注意ください。**

(8)社会科学部以外(他箇所・他機関)の科目履修

社会科学部以外の科目(他箇所・他機関設置科目)

【全学オープン科目】…<(8)-1>
・グローバルエデュケーションセンター提供科目・学部提供オープン科目
・日本語教育センター提供科目・協定他大学提供科目

【他学部提供科目】…<(8)-2>
・各学部が他学部生に履修を認める科目(学部提供オープン科目も含む)のうち、2 次登録終了後定員に余裕があるもの

【教職等資格関連科目(自由科目扱い)】…<(8)-3>
・教員免許等の資格取得に必要な科目。
詳細は「資格関連情報」(こちら)および『教職課程履修の手引き』を参照してください。

⚠ 他機関・他箇所の科目履修には登録制限単位数があります。

他箇所・他機関設置科目(全学オープン科目、他学部聴講科目、他大学科目等)で社会科学部卒業必要単位として算入可能な科目は、**年間 12 単位、在学中 40 単位まで履修可能です。**

この制度は、社会科学部卒業時に授与される学位「学士(社会科学)」を取得するために、社会科学部で修得すべき単位数を 76 単位以上と定め、その他 48 単位について自由度を高めることを目的としています。

他機関・他箇所科目はその分類あるいは科目ごとに取り扱いが異なりますので、「他箇所・他機関単位算入部門表」(こちら)で確認したうえで登録してください。

他機関・他箇所科目は、語学科目を除き、本学部に同名の科目または同内容の科目がある場合及び学部が卒業算入単位として認定しない科目は「自由科目」扱いとなります。

▽他箇所・他機関科目 登録制限単位数

	年間	在学中
他機関・他箇所科目	12 単位	40 単位

留学や編入学等で、他大学・他機関において修得した科目の単位を認定した場合は「在学中 40 単位」にカウントされます(「年間 12 単位」にはカウントされません)。

(8)−1 全学オープン科目について

全学オープン科目の社会科学部での単位取り扱いについては、社会科学部ホームページの科目登録情報に掲載する「全学オープン科目取扱一覧」で確認してください。

また、全学オープン科目の登録時期・方法は、科目設置箇所により異なりますので十分注意してください。各科目設置箇所の登録時期については「社会科学部以外の科目登録時期(社学 HP)」を参照してください。

全学オープン科目の詳細情報　確認方法について

全学オープン科目(グローバルエデュケーションセンター提供科目、学部提供オープン科目、協定他大学提供科目)の一覧は、グローバルエデュケーションセンターホームページ(http://www.waseda.jp/gec/)で確認してください。
この一覧で、曜日・時限、担当教員、開講キャンパス、科目登録時志望理由の有無等登録に必要な情報を確認することができます。
講義要項を確認したい場合は、Web シラバスシステムをご利用ください。

(8)－2 他学部聴講科目について

早稲田大学の各学部が、全学オープン科目以外に他学部生の聴講を許可している科目は、「他学部聴講科目」として履修することができます。他学部聴講の募集科目と定員については社会科学部ホームページで確認してください。

他学部での聴講が許可される科目は、次の要件を満たす科目です。

①科目設置箇所で他学部生の聴講を認めている科目であること
②当該年度に開講されている科目であること
③各学部の２次登録終了後に、定員に余裕があること

これらの科目を履修して修得した単位は、基本的に自由科目部門の単位として認定します。ただし、他学部聴講科目のうち、上記に加えて、下表の要件を満たす各科目は基盤専門科目部門の卒業必要単位として認定されます。

▽卒業算入単位として認められる他学部聴講科目

学部	部門・系列
政治経済学部	1．政治学科目部門 （政治学基礎文献研究（英語）Ａ・Ｂ、政治学英語文献研究（応用）を除く） 2．経済学科目部門 （ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門を除く） 3．国際政治経済学科目部門 （政治分析入門、政治理論入門、国際関係論入門、 ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、現代経済分析入門、公共経済政策入門 公共哲学Ａ・Ｂ、経済数学入門、ゲーム理論入門を除く）
法学部	法律科目（法学演習を除く）
商学部	専門教育科目（演習を除く）

※他学部聴講科目として他学部･他箇所が公開する複数クラスを持つ科目で、うち 1 クラスでも全学オープン科目として指定される場合、その全ての科目を全学オープン科目クラスの取り扱いに準じて卒業単位に算入する科目として扱います。
なお、他学部聴講科目の卒業算入区分（基盤専門科目、選択外国語科目、自由科目）は、Web 科目登録の科目検索画面「科目区分」の欄（下図参照）で確認することができます。

選択	学期	曜日	時限	開講学部	備考	科目名	担当教員	キャンパス	教室名	科目区分	単位	希望順位
☐	後期	水	1	政経		国際開発論 01	坪井 善明	早稲田	8－B107	専門･他箇所	2	
☐	後期	水 土	2 2	政経		解析学入門 06	西原 健二	早稲田	1－313 1－313	自由･他箇所	4	

(8)－3 教職課程関連科目について

社会科学部卒業と同時に教員免許状取得を予定している**今年度卒業予定者**のうち、次に該当する方は免許状取得に必要な単位として他学部の該当科目の履修を認めています。

該当する方は、**1次登録期間**までに社会科学部事務所にご相談ください。

①前年度までに未履修である「社会科学部設置 教職科目」同士の曜日・時限が重複している
②今年度履修の決定している「ゼミナール」と「社会科学部設置 教職科目」の曜日･時限が重複している

▽他機関・他箇所修得単位算入部門表

他箇所設置科目および全学オープン科目は、社会科学部卒業必要単位として年間 12 単位、在学中に通算 40 単位まで履修可能です。他機関設置科目（社会科学部在籍中の留学先大学もしくは転部者、3 年編入学者が入学前に、所属大学（学部）で履修した科目）は、卒業までに通算 48 単位まで卒業必要単位として認定されます。

この内、40 単位は、基礎科目または専門科目部門、8 単位は、必修（第一）外国語科目部門の卒業必要単位に算入されます。なお、2002 年度以降入学者は選択外国語科目を 8 単位まで含めることができます。

この制度は、社会科学部卒業時に授与される学位「学士（社会科学）」を取得するために、社会科学部で修得すべき単位数を 76 単位と定め、その他 48 単位について自由度を高めることを目的としています。学士入学者については 76 単位の修得により卒業要件を満たすため、下表のうち「大学院社会科学研究科設置科目」を除き、自由科目部門の科目として履修します。

開講箇所種別	認定種別	科目分類		科目種別*1				備考
				講義科目	外国語科目		同名科目*2	
他機関	単位認定	出身教育機関		申請内容をもとに科目区分を決定します。	必修外国語	選択外国語		3年次編入学生 (学士入学者を除く)
		同志社大学			必修外国語	選択外国語	認定しない	
		海外留学			必修外国語	選択外国語		
		検定試験		—	必修英語	—		
他箇所	全学オープン科目	他学部提供科目		基礎または専門科目	—	選択外国語	自由科目	
		グローバルエデュケーションセンター	講義科目	基礎または専門科目	—	—	自由科目	
			テーマカレッジ演習科目	基礎または専門科目	—	—	自由科目	
			General Tutorial English	—	必修外国語	選択外国語	自由科目	
			目的別英語科目	—	—	選択外国語	自由科目	
			言語科目（英語以外）	—	—	選択外国語	自由科目	
			保健体育科目	基礎科目	—	—	自由科目	
			インターンシップ科目	基礎科目	—	—	自由科目	算入上限2単位
			f-Campus加盟大学提供科目	基礎または専門科目	—	選択外国語	自由科目	年間登録制限単位数が設定されています。詳細は全学オープン科目履修ガイドを参照してください。
			東京女子医科大学提供科目	基礎または専門科目	—	選択外国語	自由科目	
			武蔵野美術大学提供科目	基礎または専門科目	—	選択外国語	自由科目	
			東京家政大学提供科目	基礎または専門科目	—	選択外国語	自由科目	
			京都地域大学・短期大学提供科目	基礎または専門科目	—	選択外国語	自由科目	
			九州大学提供科目	基礎または専門科目	—	選択外国語	自由科目	
		日本語教育研究センター提供科目		基礎または専門科目	—	選択外国語	自由科目	
	聴講許可科目	大学院社会科学研究科		先門科目 （学士入学者4年生以上）	—	—	—	学士入学者4年生以上専門科目として年間4単位
				自由科目				社会科学部4年生以上自由科目として年間8単位、在学中10単位
		他学部聴講科目*3		自由科目 基礎科目 専門科目		選択外国語	自由科目	
		教職等資格関連科目		—	—	—	自由科目	

*1　科目提供学部、機関の定める科目部門（専門以外、専門、語学科目の別）に準じて、社会科学部の基礎科目部門（専門以外科目）、専門科目部門、選択外国語科目部門の卒業単位として取り扱います。なお、修得した単位は、「他機関・他箇所における修得単位」として取り扱い、卒業単位として算入できる単位数は年間 12 単位、在学中 40 単位です。
また超過履修の手続きにより、自由科目部門（卒業単位に算入されない）の修得単位として履修することができます。

*2　他機関・他箇所科目は、語学科目を除き、本学部に同名の科目または同内容の科目がある場合及び学部が卒業算入単位として認定しない科目は「自由科目」扱いとなります。また、他箇所提供のオープン科目の取り扱いは、社会科学部ホームページ（科目登録情報）を参照してください。

*3　他学部聴講科目は原則、自由科目部門の単位として認定されますが、社会科学部が指定する政治経済学部、法学部、商学部の一部の科目については卒業単位として認定されます。詳細は毎年発行される『科目登録の手引き』を参照してください。

(9)科目の取り消しについて

3 次登録期間中に、1 次～2 次登録で「決定」となっている科目の取り消し申請ができます。取り消し単位数の上限はありませんが、3 次登録以降は追加登録の機会はありませんので、取り消しの際は細心の注意を払ってください(取り消した単位数を 3 次登録・他学部聴講科目で補うことは可能です)。

> なお、教養外国語で日本語選択した外国学生のみ、3 次登録期間中に加え 2 次登録期間中も登録した日本語教育研究センターの科目の取消しが可能です。

①取り消し期間

春学期:春学期 3 次登録期間 (詳細な日程は社学 HP 参照)
秋学期:秋学期 3 次登録期間 (詳細な日程は社学 HP 参照)

※各学期の 1～2 次登録で決定した科目に限ります。例えば、春学期で決定した科目を秋学期取り消し期間中において、取り消しすることはできません。

②取り消しのできない科目

以下の科目の取り消しは認められません。
①必修外国語科目
②選択外国語科目
③ゼミナール
④社会科学部以外の設置科目(＝他箇所設置科目)

③取り消し方法(Web 操作方法)

1 科目取り消し

登録決定科目の取り消しの場合、一度取り消すと登録データが消えてしまい、**再度登録決定に戻すことはできません**。十分注意してください。

2 取り消しの確認

取り消し可能な科目の一覧が表示されますので、取り消したい科目のチェックボックスにチェックを入れて〔取消〕ボタンを押してください。

取消ボタンを押すと確認のメッセージが表示されます。

(10)科目区分の変更について

3 次登録期間中に 1 次～2 次登録で「卒業算入」で決定した他箇所科目を「卒業非算入（超過履修）」に変更することができます。

> なお、教養外国語で日本語選択した外国学生のみ、3 次登録期間中に加え 2 次登録期間中も登録した日本語教育研究センターの科目の取消しが可能です。

①科目目区分変更期間

春学期:3 次登録期間　（詳細な日程は社学 HP 参照）
秋学期:3 次登録期間　（詳細な日程は社学 HP 参照）
※他箇所設置科目に限ります。社会科学部設置科目の科目区分を変更することはできません。
※各学期の 1～2 次登録で決定した科目に限ります。例えば、春学期で決定した科目の科目区分を秋学期変更期間中において、変更することはできません。
※「超過履修」で決定した科目を「算入」に戻すことはできません。

②科目区分変更の方法（Web 操作方法）

1　変更画面への移行

〔発表後算入変更〕ボタンを押してください。

2　科目区分の変更

変更可能な科目の一覧が表示されますので、変更したい科目のチェックボックスにチェックを入れて希望する科目区分を選択して〔変更〕ボタンを押してください。

○変更ボタンを押すと確認のメッセージが表示されます。

Ⅶ 聴講料（実験実習料）納入について

1．聴講料の納入期限・場所について

聴講料の納入期限、場所については社学 HP をご確認ください。

2．実験実習料（聴講料）納入についての注意

科目の登録が決定した場合、納入票を社会科学部事務所で受け取り、指定された期限までに、各キャンパスの指定生協店舗で実験実習料（聴講料）を納入してください。**期限後の納入は如何なる事情があっても認められません。未納の場合、決定科目の履修が認められないばかりか、その後の科目登録において抽選の優先順位が下がることがあります。**

なお、納入票は 3 次登録結果発表以降に 1 次～3 次登録を 1 枚に集計して、3 次登録結果発表後に発行します。

実験実習料納入対象の科目を登録する場合は、実験実習料の合計が 10 万円以上となる場合もありますので期日内に納入可能であることを確認してから科目登録を行ってください。実験実習料は納入票に記載された合計金額を全て現金で納入してください。**一部の科目の実験実習料のみ納入することはできません。**

また、代理人による納入も認めます。以下の①～③の提出書類を全て揃えたうえで、代理人が委任者の学部事務所に行って納入票を受け取り、生協に納入してください。

（代理人登録の提出書類）
①社会科学部所定の委任状（社会科学部ホームページからダウンロードして使用してください）
②委任者の学生証のコピー
③代理人の身分証明書

Ⅷ 資格関連情報

（1）教員免許状取得必要科目

教員免許状は、「教育職員免許法」と「教育職員免許状施行規則」に則り、文部科学省から課程認定を受けた教育機関において、同法で定められた教育課程(下表)により教育を受け、単位を修得したものが申請し取得することができます。本学部が課程認定を受け、所属する学生が取得できる教員免許状は、次のとおりです。

○中 学 校１種	社会
○高等学校１種	地理歴史・公民・商業・情報

教員免許状取得のための必要単位等につきましては、社学 HP をご確認ください。

(2)社会調査士

「社会調査士」とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」のことです。現代の情報化社会のなかで、社会調査の重要性がますます高まる一方、方法上・倫理上の問題点がしばしば指摘されています。「社会調査士」資格は、社会調査の質的な改善や水準向上のため、社会調査に関する教育体制を整備し、科学的な社会調査を担える人材の育成を組織化すると同時に、その専門的職業としての資格の制度化をはかるため、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会の三学会が相互の連携協力のもとに 2003 年に設立した「社会調査士資格認定機構」(2008 年 12 月より「一般社団法人 社会調査協会」に移行しました）において運営されているものです。「社会調査士」資格の特徴は、大学で開設されている科目を履修することによって資格の取得ができることで、社会科学系の多くの大学・学部がこの制度に参加しています。

本学部においてこの資格を取得するためには、次のＡ～Ｇの科目（Ｅ科目、Ｆ科目はいずれか一方でも可）を履修し、卒業時に「社会調査協会」に申請する必要があります。また、3 年生以上で一定数以上の科目を履修している場合、「社会調査士（見込み）」資格を取得することもできます。

社会科学部において、「社会調査士」資格に対応する科目は、次のとおりであり 12～16 単位程度の履修で資格の取得が可能です。

「社会調査士」標準カリキュラム	対応する科目（予定）	単位数	配当学年
Ａ 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査の基礎	2	1～
Ｂ 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査法１	2	1～
Ｃ 基本的な資料とデータの分析に関する科目	社会統計の読み方	2	1～
Ｄ 社会調査に必要な統計学に関する科目	統計解析の基礎	2	1～
Ｅ 量的データ解析の方法に関する科目	社会科学のための数学	4	1～
Ｆ 質的な分析の方法に関する科目	社会調査法２	2	1～
Ｇ 社会調査の実習を中心とする科目	ソーシャル・リサーチ（社会統合）Ⅰ・Ⅱ	各 2	2～
	ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶）Ⅰ・Ⅱ	各 2	2～
	ソーシャル・リサーチ（まちづくり）Ⅰ・Ⅱ	各 2	2～
	ソーシャル・リサーチ（地域福祉）Ⅰ・Ⅱ	各 2	2～
	紛争解決論実習１	2	3～
	紛争解決論実習２	2	3～

※ Ｅ科目、Ｆ科目はいずれか一方で資格要件として認められます。
※ Ｇ科目は、「ソーシャル・リサーチ」または「紛争解決論実習」の各科目のいずれかで資格要件として認められます。「ソーシャル・リサーチ」は同一年度にⅠ・Ⅱをセットで履修する必要があります。
※ Ｇ科目の履修にあたっては、実習費が必要になります。また、実習費以外に、現地調査にかかわる費用（交通費、宿泊費など）が自己負担になる場合があります。
※ 「統計解析の基礎 A」、「社会調査法２」、「ソーシャル・リサーチ」および「紛争解決論実習」の各科目は、隔年開講です。
※ 「社会調査士」資格取得の詳しい方法（申請時期等）については、学部の掲示を参照してください。資格取得には別途申請費用が必要になります。
※ 一般社団法人 社会調査協会 http://jasr.or.jp/
※ 対応科目は変更になることもありますので、学部の掲示、ホームページを参照してください。
※ 社会科学部設置科目以外に、「社会調査士」の科目認定を受けている他箇所（文学部、人間科学部）の科目を履修して、「社会調査士」資格を取得することもできます。

（３）その他の資格

以下の資格取得については教育学部発行の「教職課程履修の手引き」を参照してください。

・社会福祉主事
・博物館学芸員
・社会教育主事
・図書館司書
・学校図書館司書教諭